天理大学ふるさと会海外派遣報告書

文明の利器に依存しないアーミッシュの人々の生活様式とは

～アメリカ・オハイオ州とペンシルベニア州での現地調査～

国際学部外国語学科英米語専攻二回生梶原愛菜

１．はじめに

２．アーミッシュの基本情報

３．オハイオ州でのアーミッシュ関連施設

４．ペンシルベニア州でのファームステイ

５．おわりに

研修期間：2019 年 8 月１９日から 9 月 9 日

研修地：アメリカ　オハイオ州、ペンシルベニア州

１．はじめに

アーミッシュは教会によって違うコミュニティ、グループがあり、それぞれ守らないといけない規律が違うため、基本概念は統一されていますが生活や人々にはいろんな様式があります。その為一概にこれがアーミッシュとは言えないので、前半にアーミッシュの一般的に知られている基本情報と現地でのアーミッシュツアーで得た内容を著し、後半で私自身が出会ったアーミッシュの人、私が見た、聞いた、実際に体験したアーミッシュのスタイルを報告させていただきます。

・アーミッシュとの出会い

高校二年生の春にアメリカ・オハイオ州のクリーブランドに三週間姉妹校派遣で行きました。その時に訪れたのがアーミッシュの村でした。アーミッシュの人々は電気を一切使わずに生活しています。そのためテレビ、パソコン、携帯なども保持していません。また、車を使わないので移動手段は馬車です。そして服装にも決まりがあり統一されています。当時の私はアーミッシュについて何も知らないまま現地を訪れ、その光景を見てただ衝撃を受けました。しかしそれから彼らの事をもっと知りたいと思うようになり、改めて彼らについて学んだ上で、自分自身もアーミッシュの生活を体験したいと思うようになり今回の研修に至りました。またこの二年前の姉妹校派遣の時にも受け入れてくれたクリーブランドに住んでいるホストファミリーの家に二週間ホームステイしながらオハイオ州のアーミッシュの調査も行っていました。今回オハイオ州クリーブランドとペンシルベニア州ランカスターを訪れた理由はアメリカで特にアーミッシュの人口が多いとされている地域だからです。また、特にランカスターのアーミッシュはニューヨークに近いことから観光客が多いため、アーミッシュの人々が経営している観光向けの施設やゲストハウスがたくさんあるので、ランカスターではアーミッシュの老夫婦の家にファームステイさせていただきました。

オハイオ州ミラーズバーグ

アーミッシュの住む地域に近づくと景色が急に変わり、あたり一面牧場になります。そして牛、馬などの家畜が見られます。

馬車が走っているのが見えたらもうそこはアーミッシュのコミュニティです。

アーミッシュの洗濯物の様子

アーミッシュの住んでいる地域に入るとこの光景も広がります。

Amish and Mennonite Heritage Center

ここはオハイオ州でアーミッシュの村を観光する人が最初に訪れるべきとされているアーミッシュの情報センターです。アーミッシュに関する基本情報や歴史、生活様式を実際にアーミッシュの人から学ぶことができます。私はここで行われている Barn(倉庫)ツアー、アーミッシュの学校ツアー、３６０°の大パノラマで学ぶアーミッシュの歴史ツアーに参加しました。

入口にあった壁画の前で

アーミッシュの歴史が描かれた大パノラマ

Barn(倉庫)

ツアーガイドのアーミッシュの方

・アーミッシュの歴史

アーミッシュはキリスト教再洗礼派に属し、１６世紀のマーティンルターの宗教改革の頃にスイスやドイツを中心としたヨーロッパで生まれ、キリスト教の幼児期の洗礼を認めず、成人後の本人の意思で洗礼を受けることから再洗礼派と呼ばれるようになりました。当時は再洗礼派の人々は異端児として死刑にされていました。そして１５００年代にオランダ再洗礼派のメノーシモンズがリーダーとなり再洗礼派の結束をさらに高め、メノナイトと呼ばれるようになりました。メノナイトは政治的な宣誓や戦争を拒否して絶対平和主義を貫きました。そこでメノナイトに対してより厳しい規律が必要であると唱え始めたのが、スイスのメノナイトのヤコブ・アマンでした。彼に従った人々をアーミッシュと呼ぶようになりました（アマンがアーミッシュの名の由来となった）。しかし、この再洗礼派たちに対する迫害は益々ひどくなり、彼らはアメリカのペンシルベニア州に移住しました。１６８３年に少数のメノナイトが先に移住していて、１７５０年までに移住したアーミッシュは約５００人でした。彼らは移住当初はネイティブアメリカンをはじめとする様々な問題に直面していましたが、土地を購入したことにより解決に導くことができました。現在はペンシルベニア州、オハイオ州、インディアナ州そしてカナダのオンタリオ州に多く住んでいて、人口は毎年増え続け２０１８年時点で３５万人以上にも及んでいます。

２．アーミッシュの基本情報

１．　近代文明を拒絶

電話やラジオ、テレビなどの電化製品といった近代文明を拒絶して生活をしています。移動手段も馬車です。農作業にも馬の力を借ります。その理由はアーミッシュの信仰のなかで一生懸命働くことが素晴らしいことであるとされています。そのため近代文明は各自の仕事を減らし、楽にさせるため、彼らにとって良くないこととされています。

約１０分間のバギーライドツアーに参加しました！

2．　自分たちのコミュニティ内で生活をしている

アーミッシュが住んでいる地域にはいくつものコミュニティ、グループがあります。それらは教会により分かれています。またそのコミュニティにより規律の厳しさが異なります。例えば、厳しいところでは服装の色は暗めで派手な色を身に着けられないなど。

3．　アーミッシュの使用言語

アーミッシュの人々は基本ドイツ語、英語、ペンシルベニアダッチの三言語を話します。ペンシルベニアダッチとはアーミッシュ同士で話すときに使用する言語でドイツ語を基に作られているためとてもドイツ語に似ています。家族と話すときはペンシルベニアダッチを使用し、買い物や仕事などでアーミッシュでない人と話すときは英語を使用します。

4．　男性と女性それぞれのきまり

～男性～

・髭があるかないか

既婚者はひげを剃ってはいけないので皆ひげがとても長く、若者は逆に髭を剃ります。そのため、髭があるかないかで既婚者であるかないかがわかります。

・服装はシャツに黒のベストやジャケット、黒の長ズボン（半ズボンを履いてはいけない）サスペンダー、外出時は黒色のハット、農作業の時は麦わら帽子、革靴が基本のスタイルです。色は成人だと基本暗い色で、ジーンズ生地が可能なところもあります。若者はサスペンダーを付けても付けなくても良いのですが既婚者は必ず付けています。

～女性～

・既婚者は暗い色の無地のワンピースにエプロンが普段の服装です。

これらにはボタンがなく、待ち針のような針で留めています。その理由は無駄なものを極限まで除くためです。若者はピンクや黄色などの派手な色のワンピースを着ても

かまいませんが、無地でないといけません。

・生涯髪の毛を切らない為アーミッシュの女性は皆髪の毛が長い。
他人に自分の髪の毛を見せることを良いとしないので、お団子ヘアにしてボンネットとわれるヘアカバーをつけています。ボンネットをつけるときもピンを使うのではなく針をつかって留めています。

・化粧をしない。
化粧水や香水、ボディクリームを使うことはありますが化粧を誰もしません。すっぴんが当たり前です。そのためアーミッシュの女性の肌は白くとてもきれいです。また女性は華美に着飾ることが禁止されています。

5．　写真を撮らない、鏡を見ない。

アーミッシュの人々は写真を撮ること、鏡を見ることを拒みます。なぜなら写真や鏡が家の中にあるとどうしてもおしゃれをしてしまう、それでは何百年もぜいたくをしないで質素に暮らしてきた彼らの文化が崩れてしまうからです。

6．　成人になる前に

１６歳から１８歳の間に（アーミッシュでは１８歳が成人）一度アーミッシュを離れて一般の生活をすることが許される時期があります。この時に子供たちはお酒を飲んだり、電気を使ったりする外の生活を初めて体験し、自分がこのままアーミッシュに戻るか、絶縁するかを選択することができます。そして絶縁になると親とも一切かかわることを禁止されます。しかし、ほとんどの子供たちが便利で豊かな体験をしてもアーミッシュに戻ることを選択しています。

7．結婚

成人するとすぐに結婚の話がきます。そしてほとんど全てのアーミッシュは 20 代にアーミッシュ同士で結婚します。（中には結婚をしない人もいる）そして離婚をすることはタブーとなっています。また子沢山で平均的に 7、8 人子供がいます。そのため、アーミッシュの人口は増え続けています。結婚式には 200 人ほどのアーミッシュが集まり、盛大にお祝いをしますが、ウェディングドレス、指輪の交換、ダン

ス、音楽の演奏などは一切しません。アーミッシュでは音楽を演奏することが禁じられているので、アカペラで賛美歌を歌うくらいです。その分食事には力を入れていて、近所の人も親戚もみんなで手伝い、とても豪華な 200 人分の食事の支度をします。

しかしこれらのきまりには例外がたくさんあります。例えば女性が髪を切ってはいけないというルールに対してもボンネットから出る髪の毛に対しては切っても良いことや、基本、男性も女性も身に着けるものは手作りですが、寒さをしのぐためのコートや手作りでは難しいハットなどは購入して良いです。また、近代文明を使ってはいけないことに関しては、仕事の時のみパソコンを使っていたり、車は運転してはいけないけれども、タクシーやバスは使っても良い、電車や飛行機に乗っても良いグループもあります。電話に関しては家の中には置けないのですが（電気が通っていないため）、家の外に小さな物置小屋を作ってその場所だけは電気を通せるようにし、仕事用に電話を使っている人もいます。写真も後ろ姿なら良い人もいます。基本の概念は守っていますがアーミッシュも臨機応変に対応しているようでした。またオハイオ州クリーブランドでホストファミリーの家に滞在していた時には、家からすぐ近くのスーパーやスターバックスでアーミッシュの家族を見かけたことが多々ありました。最初はとても驚きましたが、ホストファミリー曰くよく見る光景だそうです。アーミッシュの規律を遵守する生活を送っていても、私たちの生活と特に何も変わらないこともあります。

・Amish Heritage Center の中にあるギフトショップ

アーミッシュの地域ではどこにでもあるジャムや本、木でできたハンドメイドの雑貨などを買うことができます。上の写真は私の購入品ですが人形に注目すると、のっぺらぼうです。アーミッシュの作る人形には基本、顔がありません。なぜなら偶像崇拝ではないので顔を書くとある種の偶像崇拝になってしまうからだそうです。(しかし最近は顔をボタンで作る人も中にはいるみたいです)

本当にアーミッシュでは共通していないことが多々あります。

・アーミッシュのフェイスブック“Budget.”

これは毎日発行されているアーミッシュの新聞です。アーミッシュの人々コミュニティ外の世界の情報をこの新聞から得ています。またこの新聞はアーミッシュのフェイスブックとも言われていて、アメリカ国内に住んでいるアーミッシュ同士の情報交換の場でもあります。毎週日曜日教会で遠くに住んでいる親戚や友人へのメッセージを提出すると翌週の Budget に掲載されます。ある一つのメッセージを少し訳してみました。

（久しぶり！元気ですか？こちらは雨ばかり続いています。朝と夜が寒くなってきました。今年は桃とリンゴを沢山収穫することができました。またこれらを使ってパイを作ろうと思っています。そうそう、昨日教会に行くと、Easton から新しい人が引っ越してきました。Sam と同じところから引っ越してきたみたい。また紹介しますね。）

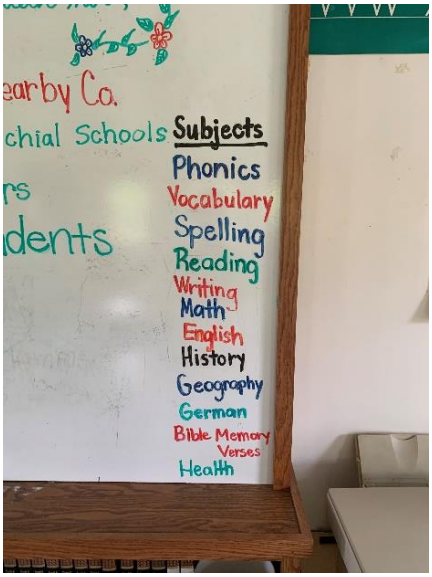
というように普段の日常での出来事を伝えるために携帯などを使わないアーミッシュならではのコミュニケーションです。このメッセージは全て英語で書かれていました。

Budget はアーミッシュ内にあるお店のどこでも購入することができます。

アーミッシュの学校ツアー

・アーミッシュは独自の学校があり、それ以外の学校では学びません。また７歳から１４歳までの８学年まで（日本の中学二年生くらい）しかありません。それ以上の教育はアーミッシュとしての生活には必要ないとされています。また、ワンルームスクールといって一つの大きな教室で一年生から八年生まで一緒に学びます。

学校の前で



学校の中は前の席から小さい生徒用の小さな机といす、後ろのほうには大きい生徒用のものが並べられています。ホワイトボードに書かれているのは主な教科です。

・通学方法

ほとんどの学生が通学方法として現在はカラフルなキックボードのような乗り物を使っています。自転車に乗らない理由は自転車にはペダルがついているため、アーミッシュのコミュニティから遠いところに行くことができてしまうからです。特にオハイオでは急な坂もこのスクーターを蹴って登っているアーミッシュをよく見ました。また、彼らは自動車の運転手にわかるように反射する黄色のジャケットを着ていました。このジャケットもまたアーミッシュが臨機応変に対応していることを示しています。

・何を学ぶのか

主な教科はドイツ語、英語、ペンシルベニアダッチ、数学、歴史（ヨーロッパ、アーミッシュ、アメリカ)、地理、保健です。理科や化学は学びません。なぜなら彼らの生活に必要ないからです。そして、八年間の教育の後、男子は家の農業の仕事を、女子は家事や裁縫などを手伝うことがほとんどです。そのため、彼らの生活に必要な事しか学びません。また、放課後は親の手伝いをするため、基本宿題はありません。

・先生はどんな人？

結婚する前の１８歳から２２歳ぐらいまでの女性が教えます。結婚後は家事で忙しく仕事ができないので、ほとんどが二年ほどで辞めるため毎年のように先生が変わります。

・アーミッシュの学校での一日

登校日は私たちと同じ月曜日から金曜日までで、土曜日、日曜日は休みです。朝八時から授業が始まります。二時間ほどの授業を終えると１５分の休み時間があり、この休み時間が体育の授業のようなもので、生徒は皆外で走り回ります。例えばバレーやバスケを行っています。昼ごはんは一時間。基本皆お弁当のようなものを持参。その後１５分の休み時間がまたあり、三時に帰宅です。自分の家から一番近い学校に通います。

壁に貼っていた単語シール

生徒が使っている教科書

３．オハイオ州でのアーミッシュ関連施設

・アーミッシュの食事

アーミッシュには宗教上で食べてはいけないものはありません。ほとんどが自給自足で素朴なものです。また、ソーセージなどの加工食品も手作りです。そして、アーミッシュは甘いものが大好きなので、食後には必ずデザートを食べます。デザートには主にパイやアイス、クッキーなどがあります。これらの食事はドイツの食文化が影響しています。

・Mrs. Yoder’s kitchen

ブラックベリーのパイ

時間制限はありません。食べ放題です。

アーミッシュはパイを作ることが大好きです。

ここはアーミッシュの家庭料理を食べることができるレストランです。店員は皆アーミッシュで、お客さんには昼休憩のアーミッシュはもちろん、一般の人からも大人気のお店でした。店内はビュッフェ形式で全て手作りでした。

アーミッシュのコミュニティに私を連れてきてくれたホストファミリーと一緒に。

・Yoder’s farm

ここは観光客向けの牧場で、アーミッシュの女性の方に家畜小屋や実際に使われていたアーミッシュの家のツアーやバギーライド体験をさせていただきました。家畜小屋には馬やポニー、ウサギの赤ちゃん、豚の赤ちゃん、鶏、ネズミ、ヤギと沢山の動物が飼われていました。またここでも実際に使われている学校に入ることができました

家畜小屋

学校

４．アーミッシュでのファームステイ

次に私がこの研修で最も楽しみにしていた二泊三日間のファームステイです。アメリカに行く前にインターネットでたまたま見つけたアーミッシュのファームステイ案内をしている方にアーミッシュの人と一緒に彼らの生活をしたい、実際にたくさんお話をしたいという私の希望を伝えると希望に合ったファームステイ先を紹介してくださいました。もちろんその方はアーミッシュの方ではなく私のような観光客とインターネットを使っていないアーミッシュの人を仲介してくださる方でした。そして私が二週間ホームステイをしていたオハイオ州クリーブランドから Amtrack で約１０時間ペンシルベニア州ランカスターにやってきました。正直、本当にたどり着くのかと何度も不安になっていましたが、途中で Amtrack にアーミッシュの方々が乗ってきて何とか今自分がランカスターにきちんと向かっていることを実感することができました。そしてランカスターステーションから Uber で約２０分、念願のファームステイ先にたどり着きました。

着いてすぐにお世話になるアーミッシュの老夫婦のベンとエマがとても素敵な笑顔で迎えてくれて長時間の電車移動で不安に押しつぶされそうだった私はやっと緊張から解放されました。そしてついてすぐに私は「とにかくアーミッシュの生活を体験したい！」という旨を伝えると、早速エマが手作りのアーミッシュのワンピース、エプロン、ボンネットを

着せてくれました。そしてエマに「ちょっとついてきて！」と言われ、裸足で庭に行くと収穫したてのトウモロコシが沢山置いてあり、早速皮をむくのを手伝いました。

本当はこのトウモロコシが３０本くらいありました。

トウモロコシの皮をむくたびに芋虫が出てきて、私は本当に虫が苦手で、日本だったら絶対その場で手を止めていたと思いますが、今回の研修の目標であったのアーミッシュと同じ生活体験をするということをひたすら心で唱えながらむき続けました。そしてその後、エマはこのトウモロコシを使って夕食を作り始めました。エマとベンの家は牧場と畑、家畜小屋があり畑にはトウモロコシ、なすび、トマト、インゲン豆、リンゴ、ブドウが育てられていて、鶏が 6 羽、26 歳の馬のミスティ、羊が 5 匹、牛を三頭飼っていました。また敷地内のあらゆるところにベン手作りの鳥小屋があり、ベンのお気に入りの鳥が 10 羽飼育されていました。彼らの家はもちろん電気は通っていませんが、プロパンガスで冷蔵庫やコンロを使っていました。またアルカリ電池は使って良いため、ライトや時計には電池を使用していました。

左上の黄色のものが電池式ライト

家の中にはもちろんエアコンなどはなく、窓があるだけでしたが、9月に入っていたこともあり涼しく快適でした。エマが料理を作ってくれている間にベンがミスティーに直で乗せてくれて人生で初めて馬に直でのり、鬣だけが命綱となり、鬣を引っ張りながら乗馬体験をしました。そして夕方に差し掛かるころ、人生で一番美しい夕日を見ることができました。

このような光景、このような時間が今、私たちが生きている時代、そして日本と同じ世界に実際に流れているという事が信じられないぐらい別世界に来たようでした。

エマの作ってくれた夕食が出来上がると早速頂きました。食事をする前に下をむいてお祈りをし、アーメンと言っていました。毎回、食事前と後にお祈りをしているそうです。

基本ベンは普通のアーミッシュとは違い、写真を撮っても何も思わないとの事でしたが、エマは写真を撮ることをあまりよく思わないとのことだったので食事の写真はなるべく避けました。この写真は配膳途中です。

主な料理としてマッシュポテトやトウモロコシを使ったもの、サラダ、パン、チョコアイス、ビーツなどがありました。もちろん彼らも全て自分たちで育てたもので作っていて、また、これらに使用するケチャップ、ジャムもまたエマの手作りでした。

エマとベンは今 71 歳で 23 歳で結婚し、今年で結婚生活 48 年目、子供は 8 人いるとのことでした。彼らは子供たちが結婚して家を出て行って寂しくなったことからファームステイを提供し始めたそうです。彼らの家には毎日のようにアメリカ国内から、また世界中からゲストが訪れていました。しかしそのほとんどはヨーロッパからなので日本人は今までで三人目だと言っていました。また、１９歳で一人で日本から来たことにとても感心をもってくださっていました。

食事が終わってからはベンがミスティ―とともにバギーにのせてくれました。

ベンの家の隣にはアーミッシュではないアメリカ人が住んでいたのですが、ベンはいつも笑顔で挨拶を交わしていてとても仲が良さそうでした。きっとこの夫婦にはアーミッシュもアーミッシュでない人も何も関係ないのだと思います。ただ、生活スタイルが異なるだけで。この日の夜はバギーライドの後、ベンと一緒に本を読んだり、ベンが「愛菜は僕に百個のアーミッシュについての質問をしないといけないんだよ！」と言ってくれたので私が聞きたかった質問をとことんしました。すると、上記で述べた、ヘリテージセンターで学んだことや、現地で買った本に書かれていたこと、日本の事前準備で学んだアーミッシュの基本情報とは全く違うことが沢山ありました。そこで私はアーミッシュにも様々な人がいることを知りました。それがこの三点です。

・成人する前に外の世界を体験してもほとんどアーミッシュに戻ってくる

現在はあまり 16 歳になっても外の世界を体験しに行く人はいないそう。その理由は誰も自ら家族と離れて暮らしたいとは思わないし、現状としては、行かないでという親が多いそう。そのためアーミッシュ以外の人はアーミッシュについて書くとき皆外の世界を一度体験すると言いますが、それは古い情報であり、『皆』ではないそうです。ベンの子供たちは誰も体験していないそうです。

・アーミッシュはあまりコミュニティから出ない。

ベンは電車に乗ることが趣味なくらい電車が大好きで、私が訪れる前日にシカゴから帰ってきたと言っていました。今までもニューヨーク、ボストン、ロサンゼルスなどには何度か旅行をしたそうです。ただ飛行機を乗るアーミッシュはやはりいないので、全て

Amtrack を使っているそうです。車も運転はしてはいけないのは分かっているけど乗ることは大好きだし、できれば運転もしてみたいと言っていました。このことから旅行、乗り物が大好きなアーミッシュもいます！

・アーミッシュはカメラを嫌う

ベンは何も思わないそうです。そして 2009 年に CNN に Amtrack に乗っているときに「電車に乗るアーミッシュ」という記事で取材されたことがあり、その時に自分の写真がネット記事に載った際、誰かに印刷してもらったのを大切にずっと保管していました。この事実には本当に驚きました。アーミッシュでも写真を好む人がいるなんてベンだけなのではないかと思うくらいありえないことでした。

寝室

ベンとエマが私に用意してくれた部屋にはベッドが二つあり、専用のバスルームもありました。ベッドのシーツ、枕カバー、絨毯、座布団などは全てエマの手作りでした。元々彼らの子供たちが使用していた部屋でした。２１時には全員就寝するとのことで私も９時に寝床につきました。電気がなくても何の不自由もなく快適に一日を過ごすことができました。

二日目

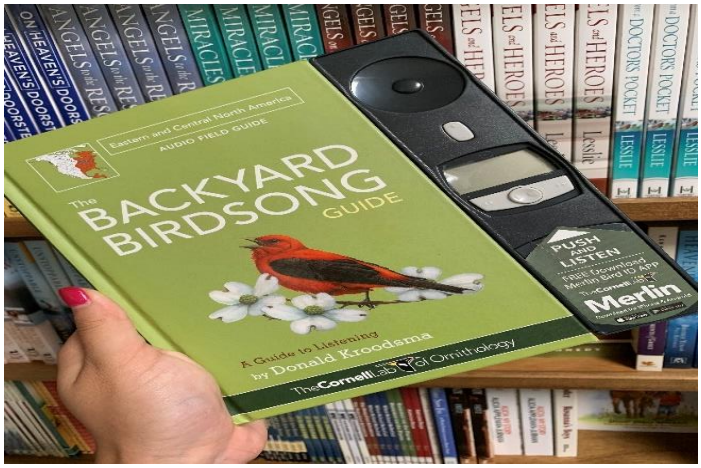
朝から鶏と牛の鳴き声で目覚めるという牧場らしい朝を迎えました。朝は気温が低いため、少し寒かったのですが、ベンが散歩に行こうと誘ってくれて二人で家の周りを２０分ほど散歩しました。ベンの家の周りはコーンフィールドに囲まれているのであたり一面コーンフィールドでした。周辺にはアーミッシュでない人が住んでいるのでスクールバスも止まっていました。また、ベンは通りすがりのトラックを運転している人やスクールバスの運転手とも車越しで挨拶を交わしていて、本当にアーミッシュではかなり珍しいフレンドリーな人だと思いました。散歩中は素晴らしい空の景色と牧場から漂う土の匂い、そして動物たちの鳴き声に囲まれていて、言葉に表せないくらいの満足感でいっぱいでした。散歩が終わるとベンと動物たちに朝の挨拶をし、鶏小屋に行きました。そこにはなんと５つの卵が産まれていて、家に持ち帰ると、エマがとれたての卵で朝ごはんを作ってくれました。

朝の風景

二年ほどでチキンとして、食べてしまうそうです。

朝食にはパンケーキやポテトフライ、スイカなどを用意してくれました。また、パンケーキにかけるメープルシロップ、ぶどうジュースまでもがエマの手作りでした。
朝食後、エマは家事をしていて私はベンと外のテラスにあるベンチにコーヒーをもって座りながらベンがすきな鳥の本について話していました。

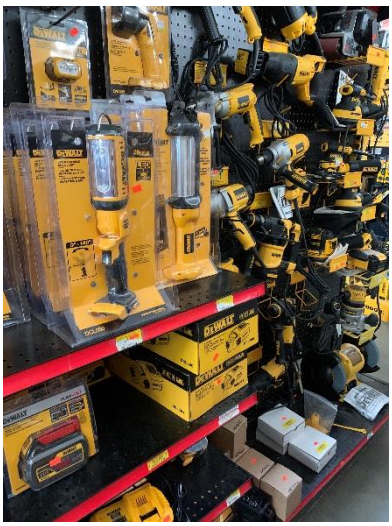
この本には１５０種類の世界中でみられる鳥の情報が書かれていて、ページに書かれている番号を押すとその鳥の鳴き声が流れるといった電池式の図鑑でした。ベンはこの本で毎日、自分の飼っている鳥の鳴き声を押して、それに対して共鳴を聞く事を楽しんでいました。同じものを三冊持っているほどお気に入りでした。

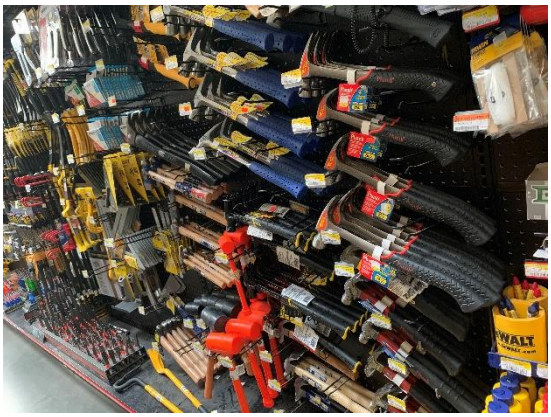


そしてこの日はベンが知り合いのアーミッシュでないアメリカ人夫婦に車の運転を頼んで、私のためにベンのオリジナルアーミッシュツアーに連れて行ってくれました。

・アーミッシュのお店

ここは多くのアーミッシュが集うお店で、仕事に欠かせない工具から日用品、食料品が売っていました。アーミッシュの建築はアメリカ社会でも大変素晴らしい技術であると認められていて、オハイオの私のホストファミリーの家も屋根はアーミッシュが作ってくれたと言っていました。アーミッシュは家具から建物までなんでも作ってしまうので工具の種類も沢山置いていました。また、修理して長年使い続けるからか、ほとんどの工具が５０ドル以上でした。食料品は比較的低価格で、アーミッシュの子供がおかしをお母さんに買ってもらおうと必死にねだっている光景を見ると服装は違っても、私たちと全く変わらない生活であると改めて思いました。





この大きさで一玉４ドルのすいか

ツアーの道中ではこのような光景が沢山みられました。本来であれば、誰もが機械で行う農作業も馬を使って行っていました。

そしてベンは牧場へと案内してくれました。その牧場は観光客むけではなく、アーミッシュの主な産業である酪農や農業をメインとした牧場でした

その牧場には馬が３０頭、そして牛も３０頭飼育されていました。写真左の道具は牛の乳しぼりに使う道具で、一度にたくさんのミルクを絞ることができるそうです。ここで絞られたミルクはチーズやバターになります。
ベンが昔、この牧場で働いていたことから、私を連れてきてくれたそうです。

・アーミッシュのキルトのお店

アーミッシュの人々は謙遜で控えめを重視している為､無地の布を使って衣服を制作し、その余り布をつなぎ合わせて独自のキルトを作り出しています。キルトは誕生する子供に捧げるものだったり、結婚する娘に捧げるものだったり、時と場合によりデザインが変わり、親から子供へと受け継がれています。また主な産業の一つでもあります。最近はカラフルなデザインが増えてきています。

ハロウィンをアーミッシュは行わないのですが、キルトにはパンプキンや、紅葉のデザインが施されていました。またクリスマスデザインのものもありました。

アーミッシュではない私がアーミッシュのワンピースを着てコミュニティ内に行ってもいいのかという不安はありましたが、出会った全てのアーミッシュが「似合っているね」とか「どこで着せてもらったの？」など沢山声をかけてくれました。ここでもまた、事前準備で知ったアーミッシュが外の人に対して閉鎖的と書かれていたことが嘘のように思えました。

ベンのツアーから帰宅後ベンとエマの家にかつてファームステイにやってきた、世界中の訪問者の話を聞きました。ベンは毎回訪問者に自分の国に押しピンを押してもらっているらしく、私も日本の場所に黄色の押しピンを押しました。特にアメリカのランカスター周辺からの訪問者が多いのはもちろんのこと、ヨーロッパからの訪問者が多いそうです。

アメリカ

アメリカ以外の国々

日本

最終日はエマとベンと就寝までお互いの家族の事や自分たちの事を語りつくしました。ベンとエマに逢うまではまさかアーミッシュの方と私がこんなに話をして、同じ時間を過ごすことができるとは正直思っていなかったので、私にとって二人と過ごした時間全てがかけがえのないものとなりました。

5.おわりに

私は事前準備として去年の１２月に大阪の民族博物館で開かれていたアーミッシュ展を訪れて、アーミッシュに関する本を手に入るものは全て読み込んでこの研修に挑みました。しかし実際にアーミッシュの生活を見て、聞いて、体験すると、本やインターネットでは知ることができなかったことや、今まで自分が学んだこととは全く異なることが沢山ありました。私はアーミッシュの人々は絶対的に彼らの厳しい規律を守り、外の世界、私たちのようなアーミッシュでない者を良く思わず、完全に閉鎖している人々とばかり思っていました。でもこれは完全なる偏見でした。オハイオ州、ペンシルベニア州で私が出会ったアーミッシュの人々は、外の世界の私にも優しくて親切で笑顔が素敵な人ばかりでした。特にファームステイをさせて頂いたベンとエマはいつも私に笑顔で話してくれて、とても気を使ってくれて、色んな体験をさせてくれました。

実は、私はファームステイ最終日に帰国の便の関係でランカスターからニューヨークにAmtrak という長距離電車で移動しないといけなかったのですが、ベンが電車に乗ることが大好きという理由だけで、私が一人では荷物も大変で、心配だからと言って、自分でニューヨークまでのチケットを買って、わざわざニューヨークのホテルまで同行していただきました。そして最後に私がベンを駅まで見送りに行くと、ケンタッキーまでおごってくださって一緒にケンタッキーを食べてお別れをしました。私はアメリカに行く前にまさかこんなに親切な人に出会えるなんて思いもしていなかったのはもちろんのこと、まさかアーミッシュの方が突然日本から現れた大学生なんかにこんなにも優しくしてくださるなんて、本当に私は今回出会った全ての人々に恵まれていたと思います。しかし、冒頭で述べたように、アーミッシュはグループにより規律が違うので中にはあまり外の人とは関わらない人も中にはいるということも事実です。きっと私たちと同じでアーミッシュにも、どれだけ「信仰」という規律があったとしても、多様な性格や個性を持った人がいるんだと思います。また、私は今回の研修で凄く嬉しく思ったことがありました。それはオハイオ州のアーミッシュに連れて行ってくれた私のホストファミリーが「こんなにアーミッシュ

の人々が素敵な人ばかりで、私たちに対しても友好的であるなんて、知らなかった。愛菜がアーミッシュの地域に行きたいと言わなかったら、自分たちからアーミッシュについて学ぶ事はきっとなかったと思うから今回一緒に行けてよかった！」と言ってくれたことです。皆さんの中にも、私の今回の研修によりアーミッシュを初めて知った人は沢山いると思います。その中で、近代文明を拒んでいる、宗教に特化した生活を送っているなどを聞くと怖いと思う人もいると思います。しかし、それは違うという事を、どうかこの報告書によって伝えることができていれば幸いです。アーミッシュの人々も私たちと同じ人間なので､生活スタイルが違っても家族を大切にすること､平和を望んでいることは同じです。アーミッシュでない私たちは今、近代文明に恵まれすぎて、家族との時間や、時間の流れを無駄に使いすぎているのかもしれません。

人々が生活する中で、文明は発達し、便利になり、簡素化します。でもそれは人々を時には苦しめてしまうことがあります。そんな世界に住む私はアーミッシュの人々からは素朴に日常を過ごすという素晴らしさを教えていただきました。今回体験を通して、私たちは、進化する文明から逃げる事はできませんが、私は人との繋がりの有難さを伝えられる第一人者でありたいと思います。またオハイオでの二週間を一緒に過ごさせていただいた私のホストファミリーを含め、この三週間の研修を支えてくださった全ての人に感謝しています。

この度「天理大学ふるさと会海外研修基金」に採用して頂き本当にありがとうございました。私にとってこの約三週間の研修はたくさんの現地の人との出会いや、皆様の温かいご支援のおかげで実りのある大変充実したものとなりました。心より感謝しています。